

(2) これからの三島村

わたしたちの住む三島村は、^{まわ}周りを海でかこまれています。そのため、いろいろと不^ふべんなことやこまったことがあります。鹿児島などへの行き来や、生活にひつような品物を運ぶには、^{おも}主に船しかありません。また、高校がないので^{ぎむ}義務教育学校を^{そつぎょう}卒業したら、わかい人が島を出ていくので、島に住む人数が毎年少なくなっています。それに、仕事を^{する}場所があまりありません。でも、人びとは力を合わせて、自分たちの大切なふるさとの三島村をもっと住みよいところにしようと、くふうしています。

たとえば、2020年(令和2年)、「フェリーみしま」が新しくつくられました。それまでの船より大きくなり、^{に もつ}荷物や人をたくさん運べるようになりました。^{の ごこち}乗り心地をよくするために、^{おおがた}大型エレベーターを^{せつち}設置したり、^{よこ}横ゆれを少なくする機械をつけたりしました。しんせんな内に品物を運ぶために、^{すいそう}魚用の水槽や^{れいぞうし}冷蔵施設も^{そな}備え付けました。

また、村は少しでも人口をふやすために、三島村に住みたい人のために住宅を建てたり、くらしのお手伝いをしたりするなど、うつり住みやすいようにしています。それから、いろいろなところでたけのこなどのおみやげを売ったり、ヨットレースのかいさいやジャンベのえんそうなどをしたりして、三島村のよさをみんなに知ってもらうための活動もしています。

三島村には大きな工場や会社はありませんが、たけのこ、椿油、黒島ミカンなど、ゆたかな自然を利用して、三島村でしかできないものを作ったり、しつのよい牛を育てたりしています。また、近くに魚のとれるよい場所があるので、^{せいび}港を整備したり船を大きくしたりして、漁業をさかんにしようとしています。最近では、インターネットを使って会社などに行かなくても島で仕事ができるようになってきています。

それから、わたしたちの生活につながるのある学校や診療所、道路なども、もっとよくしようと計画を立てています。

みんなのくふうやがんばりのおかげで、三島村は昔とくらべるとずい